



市民が主役のまちづくりを 布目ゆきお 市政直行便

2013年初夏号

NO. 34

【編集・発行】市民ネット
長野市議会議員・布目裕喜雄

〒380-0961

長野市安茂里小市 1-4-10

自宅 ☎ 227-3537 FAX 227-3897

メール: info@nunomeyukio.jp

市民の声を真摯に受け止め 誠実であったかい市政を

1,556億円余の新年度予算案等を可決した3月議会で、鷺沢市長3期の自己評価、新庁舎・新市民会館建設の事業費増大の問題点、随意契約となるサッカースタジアム整備事業の課題、これからの市政の重要課題となる公共施設の維持管理に向けた基金の創設などをテーマに一般質問を行いました。

■「みんなの声が長野をつくる」公約…看板倒れを憂慮



私は、鷺沢市長が市民の小さな声、声なき声に真摯に耳を傾け、誠実に対処する姿勢に課題を残していると受け止めている一人です。

「みんなの声が長野をつくる」公約の実現度を質しました。市長は、「私の政治姿勢の根幹。市民に参画しやすい環境の充実を図るため、広報ながのやホームページ、メールマガジンなどで市政情報をわかりやすく提供してきた。また、まちづくりアンケートやパブリックコメント、元気なまちづくり市民会議など、あらゆる機会を通して市民の要望や意見を聴いてきた。市民の要望に誠心誠意努めてきたことは私の自負するところ」と答弁しました。

「自負」にはビックリです。現状の市民の声の把握や市民参画の仕組みが、十分に機能しているのか、重要施策に関する住民投票への対応や市民アンケートへの対応には、後ろ向きといわざるを得ません。率直な反省の弁があつて然るべきです。

■「箱モノばかり」批判…施設の必要性・将来性に市民合意を

「箱ものばかり」との市民の批判にどう応えらるのか…大規模な施設建設が目白押しとなっている中、福祉や教育、生活環境の改善にしわ寄せがあつてはならないという趣旨で質問しました。

市長は、「民生費や教育費は予算で40.5%と非常に大きい。市立長野高校や放課後子どもプランの推進、「おひざで絵本」事業のように好評を得ている事業もある。施設整備は、単に建設することが目的ではなく、必要な施策をハード・ソフトの両面で着実に実行していきたい」と述べました。

必要な施設整備は理解するものの、施設の必要性・将来性について、もっと市民の理解と合意を広げることが大事です。また、民生費や教育費のウェイトが高いのは、生活保護費など扶助費の増、国の施策による自治体の支出増が主なもので、国基準

に上乗せする事業展開は希薄といわなければなりません。福祉や教育の施策の

充実に課題を残しています。また、地区要望に対し「厳しい財政の折…」が行政の常套句となり、災害対策をはじめ生活環境の改善等のスピードに遅れが生じないようにすることも必要です。【写真は南長野運動公園総合球技場のイメージ図】



■市民の最大関心事…「雇用の安定」にもっと力を

「雇用の安定」は、まちづくりアンケートでは4年連続1位で市民の最大関心事です。国の政策転換が必要ですが、市として何ができているのかが問題です。市長は、「国全体としての経済状況の改善による景気の向上が必要」としたうえで、「雇用に直結する観光、農業など産業振興に力を入れるとともに、国の交付金を活用した緊急雇用創出事業で延べ1,340人に上る失業者の就業機会をつくり、また若者

の就労に向け就職面接会や企業見学ツアーを実施、職業相談室での就労相談に応じてきた」と強調しました。

しかし、非正規雇用の拡大、不安定な雇用に歯止めをかけるものとはなっていません。福祉分野や環境分野で新しい雇用の創出に公がもっと役割を担うべきです。また、市役所の非正規職員の賃金・労働条件の改善も必要です。

■行政マンの潜在能力をもっと引き出すべき

私は、市長が民営化、民間活力の導入を歴史的使命と強調するあまり、官の持つ潜在的な能力を十分に引き出し得ず、市職員が委縮しているのではと懸念しています。市長は、「民間活力の導入は職員の意識啓発にもつながり、大いに刺激を受けて

いる」とするのですが、民営化・民間委託の常態化が、行政のプロとしての創造力を削がせ、発想や技量を縮こまらせてしまうことを懸念します。行政マンの熱意・意欲・想像力を十分に引き出す仕組みの構築が問われています。

■「損得」抜きで、質の高い公共サービスを

市長は、「儲かる農業」に始まり、果てには「儲ける住民自治協議会」と、損得を価値観とする行政運営を滲ませています。これで果たして良いのでしょうか。産業において、生業を生業として成立させることは大事なことです。格差と新たな貧困が広がる中、損得抜きで質の高い公共サービスの維持に心を配り、心を砕くことこそが行政の使命と考えます。

市長は「住民自治協議会が一律に“儲け”を生み出すことは難しいが、交付金や会費のみに頼るのではなく、新たな財源を獲得していくことは必要」と弁明しました。まさに弁明です。このことを「儲ける住自協」と表現してしまうところに、一面的な経営者の発想の限界を感じるのには私だけでしょうか。

■実績を強調する市長…市民とのかい離は深い

3期務める現職の市長として実績を強調したい気持ちはわかりますが、強調する実績に市民の間には異論があることに真摯に向き合ってもらいたいと考えます。施設整備は必要な施策であって実績で

はありません。自らの市政運営に足らざるものは何なのか、謙虚な反省とこれからの道筋をしっかりと示すことが市長の責務です。

公共施設維持管理…「基金」を設け、将来に備えを

市では、「公共施設白書」の作成にとりかかっています。「公共施設白書」は、様々な施設をはじめ道路や橋梁などのインフラ資産の将来の改修・更新費用を試算し、公共施設の再配置計画・長寿命化計画の策定につなげようとするもの。

私は、昨年9月議会で、公共施設の見直しから、市民生活に直結することから、市民とともにつくる公共施設白書、市民とともにつくる公共施設

設見直し計画を求めてきました。維持費に毎年約5億円投入する五輪施設に加え、広範な中山間地域を抱える長野市にとって、公共施設の維持管理は行財政運営の最重要課題に浮上します。

3月議会では、公共施設維持将来を見据え、「公共施設維持管理基金」を創設すること、行政内に公共施設をマネジメントする総合部局を編成することなどを提案しました。

■「基金創設を検討」と答弁

基金の創設については、「公共施設再配置計画の策定過程で、引き続き維持していく施設規模が固まった段階で検討したい」と答弁。また、横断的・総合的な部局編成については、「公共施設のマネジメント専門部署として、他市の取り組みを参照しながら検討したい」とするとともに、担当課の拡充は、「必要性を感じている。合わせて検討したい」としました。

いずれも条件付きですが、検討していく姿勢を示したことを評価しています。市民が納得できる公共施設の見直しに向け更に取り組みます。

他都市の公共施設見直しは？

◆神奈川県相模原市では…人口72万人の政令市の財政力をもってしても、20年後には4割の施設縮小が避けられないとし、施設の見直しを進めています。市民の理解と合意が最大の課題としています。

◆神奈川県秦野市では…今後40年間に施設の改修・維持に750億円以上必要で346億円の財源不足が生じると試算。新しい箱モノは建設しない、現在の箱モノは優先順位をつけて圧縮、義務教育や子育て支援を最優先で施設維持を図る「公共施設再配置計画」を策定しています。

第一庁舎 市民会館

建設費17億円増え、151億円に 事業費を小さく見せる意図を質す

第一庁舎・市民会館の建設事業費は、追加の工事等を踏まえ、当初の134億円から151億円に膨らむことになりました。私は3月議会で、「工事追加の要因を除いても適正な事業費積算ではなく、経費を小さく見せる意図があったのではないか。市民の信頼を揺るがす大問題だ」と質しました。

新第一庁舎は防災拠点機能の強化と市民の利便性の向上を図るとともに、新市民会館は質の高い文化芸術施設として、H26年度の竣工を目指しています。7月から建設工事が始まる予定です。H25年度予算では、本体建設工事費などに19億6,500万円が計上されています。

■突然、事業費が151億円に膨張

新庁舎・新市民会館の建設事業費は、基本計画や基本設計の段階で計134億円とし、市民の理解を得てきました。ところが、市側は3月議会の直前、総事業費が134億円から17億円増大し、最大151億円となる見通しを示したのです。

■追加工事の増加分は止む無し

事業費増大の理由は、工区分割発注の実施(1.2億円増)や地下2階への小ホールの設置(3.5億円増)、ホール面積の増加(2.8億円増)、コンクリート・型枠工の相場高(1割程度の増)などによります。私は、こうした事業費増は、地域経済の振興と公共工事の品質確保のためにも、ある程度やむを得ないものと受け止めます。

■市民の信頼を揺るがす

「落札ベース」の事業費積算

私が問題とした点は、これまでの134億円の事業費は、他市の類似施設の落札額から算出したもので、「落札ベース」であることを明らかにしたことです。151億円という事業費は、設計・工事変更に乗じて、本来あるべき「予算ベース」の事業費にこっそりと転換・修正したものなのです。

本来、入札を前提とする公契約における事業費は、設計基準や公共工事設計労務単価等をにより積算され、予算ベースで公表されることが当たり前。落札ベースの予定価格では、入札は成立しないことになってしまうからです。

■公正な入札を阻害する

「イレギュラーな事業費提示」

市の建設事務局は「イレギュラーな事業費提示となり陳謝する」としました。しかし、市長は「現実の支出額である決算ベースで検討することが適切と判断」と述べ、公契約において、公正性・競争性・透明性を担保すべき行政の責務を忘れ、開き直りともいえる姿勢を示したのです。

市民に開示し約束する事業費は、「イレギュラー」であってはなりません。「無理な金額での設計は、市の工事発注としても不適切」(総務部長)とするように、入札行為に入れないのですから。

「入札はまだだから、軌道修正し、実害はないの



だからいいでしょう」みたいに開き直る市政は、無責任のそしりを免れません。【写真は本格化する建設工事】

■「事業費を小さく見せる意図」

否定するものの、釈然とせず…

庁舎・市民会館の建て替えは、建設地に始まり、建設是非を問う住民投票の如何を含め、紆余曲折を経てきました。私は、「市民の理解を得ようとする余り、経費を小さく見せる意図があったのではないか」と厳しく質しました。

総務部長は「そのような意図は全くない」と否定しますが、釈然とはしません。何故、落札ベースのイレギュラーな事業費で市民理解を得ようとしてきたのか、責任ある説明にはなっていないからです。

■市長に公式謝罪を迫る

今回の顛末は、建設事業に対する市民の信頼を揺るがせることとなります。市長に公式謝罪と市民説明を迫りました。市長は「正確な情報提供という点で、配慮に欠けていたことをお詫びする。施政方針市民会議等で市民に説明していく。今後も契約の公共性・透明性の確保を図る」と答弁しました。

■予算案の賛成討論でクギを刺す

今回は、課題を残しつつも、事業費が正常化されたと認識し予算案には賛成しました。しかし、敢えて予算案の賛成討論を行い、市民の信頼を揺るがせたことを反省し、改めて市民に対し説明責任を果たすことが必要なこと、建設事業の入札や工事のプロセスにおいて、ブラックボックスがないよう、透明性・客観性が担保されるとともに、適正価格のもとで公共工事の品質が保持されるよう強く求めました。

★第一庁舎・市民会館の実施設計…長野らしさの発揮、期待される★



北東側鳥瞰図(昭和通り側から)



北西側外観図(昭和通り側から)



市民会館 大ホール



市民会館 小ホールB

★新市民会館…久石譲さんが芸術監督に内定★

新しい市民会館の芸術監督に作曲家の久石譲さんが内定しました。「よくぞ、受けていただいた」とうれしく思います。手腕が発揮され、市民と一緒に新しい文化芸術のうねりが発信され

ることを期待します。新市民会館の“こけら落とし”は、宮崎駿監督作品の壮大なコンサートになるのでしょうか?!。これまた期待が募りますね…。



安茂里でのあれこれ



◆2月1日、国道19号・小市区間に「無常院」バス停新設に。公共交通の利用促進につなげたいもの
◆2月10日、安茂里公民館で市政報告会。ありがとうございました◆2月25日、安茂里住自協で国道19号歩道整備を国に要望◆4月25日、安茂里の新区長の皆さんと一緒に建設部と懇談。JR安茂里駅踏切の拡張、国道19号歩道整備、マンボ坂

の改修、伊勢宮区間(西友前)の市道の歩道整備などを改めて要望◆5月13日、犀川河川敷・ジョングロードの整備に向け、市教育委員会体育課と現地調査。実現に向けて頑張ります。

編集後記 ◆5月10日に初めての長野市議会・議会報告会。質疑かみ合わず、課題も浮き彫りに。身近で信頼される議会へ…議員の資質に磨きをかけ、さらに充実した報告会にしたいもの◆市長の進退表明は参院選後か?市民本位のビジョンもち、市政を託せる有為な人材の登場を願う◆7月には参院選。規制緩和と競争激化=アベノミクスの正体みたり。民意を発揮したい◆3月議会報告となる市政直行便をお届けします。ご意見を◆夏が続くものの、朝夕の涼しさは長野ならではの?雨が心配。体調管理にご注意、ご自愛ください(布)

ホームページで、より詳しく市政報告をしています。<http://www.nunomeyukio.jp/>
ブログも開設しています。<http://www.nunomeyukio.jp/blog/> 「布目ゆきお」で検索を